



2019

付中通信第9号

メディカルスタディツアー

2019.11.26

高水高等学校附属中学校長 宮本 剛

今年3月に岩国ユネスコ協会が主催した「メディカルスタディツアーinカンボジア」には本校から4名の高校生が参加し、感動に満ちた貴重な体験を携え帰国しました。そして来年3月にも第2回となる同趣旨のツアーを実施することになり、現在詳細プログラムの大詰めを迎えています。繰り返しになるかもしれませんが、このツアーの趣旨と内容を再掲させていただきます。



趣旨：ボランティアで医療活動を行う日本人医師、大村和弘先生の協力を得て実施する本企画はカンボジアの医療現場を視察して、現代の国際社会が抱える問題に直接触れる機会を提供するものです。このツアーの経験を基に、将来、志を抱いて社会に貢献する人物が育つことを願っています。

大村先生の実際の活動の動画は下記 URL 又は QR コードからアクセスしてご覧ください

2014年 ラオス

<https://www.youtube.com/watch?v=Umka5g-PTMA>



2008年～カンボジア(2016年公開)

<https://youtu.be/8dLNErpQX6g>



内容：大村和弘医師率いる日本の医療団が活動するカンボジアの医療現場を見学し、海外医療活動の意義や課題を自身の目と耳を通してじっくり考えてもらいます。現地病院研修中は、大村先生を始め医療団の先生方との意見交換や発表の機会も与えられます。

自身の今を見つめ直し、これからの生き方を変えるかもしれない一生に一度の旅の企画です。

私は岩国ユネスコ協会の副会長という立場で、このツアーの事務局を担当しています。そこでここに

裏話をいくつか並べます。

旅行業者の選定にあたっては、費用をなるべく抑えることが至上命令ですが、それ以上に重要なのは、カンボジアという国でストレスなく旅程をこなせるサービスを提供してもらえるかという点です。国内旅行ならホテルの格や乗り継ぎの便などでおおよそそのツアーのよしあしは決まるとは思います。外国、しかも発展途上国となれば、現地の地の利を得て気配りのできる業者でなければなりません。本ツアーでは、かつてカンボジアツアーを主催してきた日本ユネスコ協会連盟の採用した現地旅行業者を最終選定し、ツアーの組み立てとガイド等お任せしました。ということで、とりあえずプログラムの進行については、かなり自信があります。

今回はシェムリアップにはいきません。それで世界遺産アンコールワット等の観光やユネスコが推進する世界寺子屋運動の実際の姿を視察したり子どもたちと交流したりすることはできません。したがって1週間プノンペンに滞在しますが、病院研修以外の研修活動を1から組み立てることになりました。これ



はつまり新たなプログラム開発といえるかもしれません。

今二つ、候補をしばり、情報収集をしながら先方と折衝中です。

その一つは、プノンペン郊外の小学校訪問と交流です。プノンペンはすでに都会化し、かつてのフランス統治時代の街並みもすっかり失われてしまったと聞きます。そこでカンボジアの生の姿が依然色濃く残る田舎の地域と、そこで学ぶ子どもたちを是非見てきてほしいと思っています。

もう一つは、今年5月「アンビリーバボー」というテレビ番組で取り上げられた、カンボジアの大地に今も数百万個も残ると言われる、ポルポト内戦時代に埋設せられた地雷処理に人生をかけた日本人と出会ってもらおうと思っています。

こんな仕掛けを準備する中で、私自身もうすでに多くの出会いを経験することができました。完璧な裏方ですが、私は私でほんとうに楽しくやってるわけですね。